

アゲハの巣立ち

兵庫・西宮市

サッチ(1)

今朝、冬越しのアゲハ蝶のサナギが羽化して元気に広い世界に飛んで行きましました。3羽目です。近いうちに庭のレモンの葉に卵を産みに帰ってくると思います。

さあ、今年も夫のアゲハの幼虫のお世話が始まります。何羽巣立っていくのか楽しみです。

この時期の楽しみ

群馬・前橋市

堀越百合子

芽吹き季節。山椒の新芽をつんで、佃煮を作りました。こんなことをする人がいるんだと

かと思ひながら、黙々と新芽をつみ、選別し、じっくり煮る。こうして手間ひまかけて作るのも、山椒の佃煮が大好きだから。この時期だけのお楽しみです。

悦に入って

北海道石狩市

松木誠子

わが家の6歳になる愛猫が最近テレビを見るようになった。特に、天気予報がお気に入りです。放映中は見入っていて、首をかしげてジッと見ている後ろ姿が何ともホッとする。

まわりがキナ臭い日々、一つ二つほほえましい話もいろいろ思う。そのネコの姿を新聞ちぎり絵

娘と私

三重・津市

平田喜子

非婚の娘と私。仲が良いのか悪いのか、毎日レクリエーションのように、言い合ったり、笑ったり、ふざけたりと騒々しい日々です。

先日、パソコンのクラッシュ、プリンターの不調、加えて携帯電話の異状とトリプルパンチに見舞われ、右往左往の私に代わり、多忙のなか、業

# 読者がつくるページ

川柳  
おばさんはどこからおばあさんかなあ  
和歌山・田辺市 江藤弥生(70)  
愚痴こぼしごはんもこぼし生きてます  
三重・御浜町 東尾栄子(78)

者まわりをして解決に導いてくれた娘です。多分、私一人ではお手上げ状態で最悪。その日の夕食は好物を2品増やして感謝。でも、レクリエーションは続けます。

2人で体験教室へ  
京都府

りつ子

夫(83)がパーキンソン病になり、体がこわばってきて、動きが鈍いので、2人で介護の体験教室に通っています。夫はもう少し動けるように。

夫婦ともに自家製の漬物が大好きで、毎日の食卓に欠かせません。

年とともに、少しずつ力がなくなってきたので、重石が上げづらい。

自分たちで作った漬物があと何年食べられるだろうか。

あと何年?  
富山・上市町  
亀田良子



福岡・田川市 岩下明子

戦争反対生活  
中れデモのぶかりに力をもちます

**原稿募集**  
☆テーマ：今、聴きたい音楽/相手のパートナーどう呼ぶ?/どうしても捨てられないもの  
投稿や作品をお待ちしています。また、紙面への要望・意見などお寄せください。投稿は300字前後、短くする場合があります。住所・氏名・年齢・電話番号を、匿名希望の方はペンネームを書いてください。掲載した絵手紙は新婦人のSNSに転載する場合があります。あて先 〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20 新婦人しんぶん編集部 ファクス03-5805-2372 Eメール s-press@shinfujin.gr.jp

## おてんき てんきII

(2050) RANKO



### 読者文芸

## あなたも俳句

田中千恵子 選

紅梅や少年野球にいる少女

千葉 卯の花

「評」どうして女の子が居るんだいの声が聞こえたりもするが、野球の好きな少女は、さわやかに練習にはげむ。寒風に咲く紅梅のように。前かこの小犬と爺は春を漕ぐ

大阪府 松岡 圭子

「評」木の芽、草の芽が萌え出し、水が春の歌をうたい出すと「小犬と爺」はじっとしてはいられない。自転車に乗って「春を漕ぎ」に出かける。春の風きりんぱ、ロリと青き舌

東京都 勝間田喜久代

「評」新芽を食べよう、きりんは長い首と舌を欄の外へ伸ばす。きりんの舌が黒または青いのは、強烈なサバンの日差しから守るためという。「青き舌」が印象的な作品。

駅ビルの陰ニセアカシアの余生あり

東京都 岡崎たかね

「評」この木が輸入された明治時代、呼ばれた名が

### 読者文芸 あなたも詩

瀬野とし選

夫の住んでいる世界

大阪府 奥村 好子

「新しい生活を始める君へ」

神奈川 中沢 明子

いつでもできることと今しかできないことがある新しいことにチャレンジするときはだれでも不安に思うグチを言つのも有りだよまずは体を動かすことが大事

十年前の自分に気がついた君は

十年後の自分へメッセージをおくろう

今から始まる物語は

今までの十年があったからこそ

できることなの

これからの日々は

未来の自分へのおくり物

咲き始めた梅の花を指差して

「一句いかがですか」と声をかけた

すかさず一茶の句をすらすら詠んだ

「あなたは一茶さん」と問うと

「はいそうですよ」と淡々と答えた

思ってもみなかった反応に 私は

嬉しくなって 声を張り上げた

「あの有名な一茶さんですか」と

抱きついてサインを求め手を出した

漢字で「小林一茶」と書いてくれた

別の日 ベランダにきた雀たちに

「私が一茶です」と挨拶をした

夫の住んでいる世界が垣間見えた

介護のしんどさを軽くするその鍵は

この私の手にあるのかもと思った

「評」中沢さん。新しい挑戦を始める人を励ます温かな詩。「十年前の自分に気がついた君は」十年後の自分へメッセージをおくろう」が味わい深い。奥村さん。病気の人は周囲とコミュニケーションを取りにくく孤独になりがち。否定するのではなく相手の住む世界を理解して共感すると、互いに心が通じること

をこの詩から知らされます。

ちょっと違っただけなのだが。掲句の「ニセアカシア」美しい「余生」であってほしい。

東京都 菊池 敦子

「評」異常気象による「ダム涸れ」のすさまじさ。貯水率0%の深刻なダムも出現した。

「ペンコロ」の話を通じて春障子

長野県 吉井 未知

「評」ペンコロ(ペンペンコロ)で笑えば、百

歳間違ひ無し。

風止みて声よく通る春の鳥

北海道 工藤 智子

春風に誘われ八十路の初雪で

京都府 亀山 照美

手のひらの感情線に名残雪

愛知県 長谷川 優子

ミミザ咲き友の病の癒えにけり

東京都 松沢 真子

〔投稿規定〕作品は18字16行以内、未発表のものに限ります。住所、氏名を明記して、編集部「あなたも詩」係へ。詩は年4回(1、4、7、10月)掲載です。次回掲載(7月)の締め切りは6月30日。

《作品募集》ハガキなどで編集部「あなたも俳句」係まで。作品は未発表のものに限ります。